

令和 6 年度
第 2 回 家庭教育支援連絡会 会議録

1 日時

令和 7 年 3 月 27 日（木）午前 10 時～11 時

2 場所

市役所議会棟 4 階 第 I ・ II 会議室

3 出席委員

権永委員長、青木副委員長、田中委員、中川委員、鍵崎委員
島津委員、岩本委員、東田委員、木場委員

4 欠席委員

中村委員、白石委員、出口委員

5 事務局

岡元課長、阪本係長、川上、西岡

5 会議次第

(1) 開会

・あいさつ

(2) 案件

- ① 家庭教育学級について
- ② 寝屋川市家庭教育サポートチームについて
- ③ ねやがわ子どもフォーラムについて
- ④ その他・情報交換

会議録

1 開会

社会教育推進課阪本係長より欠席委員の連絡の後、権永委員長の進行により会議が開催された。

2 案件

(1) 家庭教育学級について

家庭教育講座

全 23 小学校で開催した。

講座の内容は、インターネット関係の「家庭での情報モラル」が人気であったが、「児童心理」の内容で開催した学校もあった。

(2) 家庭教育支援者スキルアップ講習会

市内の家庭教育支援者、またこれから家庭教育支援者として活動する方を対象に、スキルアップを目的として令和 7 年 1 月 16 日、21 日、31 日の 3 日間 6 講座を実施。講習会受講者の中から、次年度の「家庭教育サポーター」の希望者を募り、ご応募いただいた中より 21 名の家庭教育サポーターが決定した。数名人数が足りないため、志のある方を探して、ご協力をいただきたいと考えている。

3 寝屋川市家庭教育サポートチームについて

今年度は全 23 小学校に各 1 名、エリア担当として 1 名を任命し、新サポーターの配置校等を巡回していただいている。地域や関係機関と連携しながら、保護者の良き相談相手になり、家庭の健全化を図り、子どもの生活改善につながるよう活動。

活動実績として、令和 7 年 2 月末現在で、電話相談 2,197 回、学校面談 1,440 回、家庭訪問 1,871 回、児童対応 8,662 回となる。

4 ねやがわ子どもフォーラムについて

開催日：令和 7 年 2 月 8 日（土）

講 師：株式会社フェリアン副所長 津村 薫 氏

「さりげなく、思いやりのある子育て～家庭で、学校で、地域で～」とい

うタイトルでお話いただいた。

アンケートの回答には、「自分を大切にし、子どもたちとの関わりを見直したいと思った。「自分の感情を大切にすることが自分勝手とは違うこと、周りにも良い影響を与えるんだということを学べて良かった」「とても楽しい講義だった。子育ては終わったけど、これから生きていく上での心の持ち方がよく分かった」等の声があった。

5 その他・情報交換

【幼稚園】

子育てに不安を持っている方も多く、保護者対応に時間をかけている。最近ではコロナで一時期中断していたサークル活動で「部屋を借りてもいいか？」と保護者から少しずつ声が上がってきており、今年度からテーマも何もなく集まって、たわいもない時間を過ごすことをはじめられた。この取り組みでは複数の小学校区から来た方が交流しているが、小学校区毎に集まれるような、気軽に行ける場所があれば、保護者が安心できたり、話し相手になってもらえたりするのではと思う。

【こども園】

普段、保護者同士で話をしているところをあまり見かけない。みんな、バタバタしていて時間がないのだろうと感じる。そのお母さんたちはどこでホッとしているのかなと思う。近年の物価高が家計に与える影響は大きいのだろうと思うが、保育者の前ではそういう姿は見せないし、みなさん明るく過ごされている。ただ、やはりお母さん自身は「喋りたい」という気持ちがあるのか、事務所に来てワーンと喋って、ちょっとホッとして帰られるというのが日常になっている。

【子育て支援課】

○ ファミリーサポートセンター事業で学校・幼稚園・保育所の送迎依頼が多い。

子どもの登校時間より先に仕事に行かないといけないから、登校班までの時間を誰かに見てもらいたい、学童まで迎えに来て習いごとに連れて行ってもらう等、仕事の時間が間に合わない人たちの依頼がすごく多い。一方で提供

会員が少なく、50 人程に対して 700～800 人の依頼があり、コーディネーター 2 人が電話をかけるが、なかなか依頼に応じてくれる人がいない。以前に地域協働役員会に行かせてもらい、「自治会でも周知してください」と養成講習会の案内を持って行った。結果、今回 20 数人がプラスで入ってくれた。

- リラットで一時預かり事業をしているが、年間 2,000 人以上の利用者がいて、その 7 割程は保護者のリフレッシュが多い。お金があればリフレッシュできるけども、お金がなく、やむなく家で子どもに動画を見させている間だけ、息をついているような人たちはまだまだいるのかなと感じる。また、リラットキッズスマイルパークの対象は未就学児まで。小学校に上がると使用することができないので、「小学生の遊び場を作してほしい」ことを言われる。

【家庭教育サポーター】

- 年々 6 年生が幼くなっているように感じる。担任の先生に自分の気持ちを言えなかったり、親があまり構うことができず、かけ算ができないぐらい学力が低かったり、卒業式の 2 日前にそんな状態だったと知ってびっくりして、もう少し見ておいてあげたらよかったなと思った。
- 配置された学校は非常に遅刻の多い学校で、最後の終業式の日も 1 人 2 人は連絡なしの遅刻者がいた。家庭の送り出す力がそれぞれで、何かあるのかなとか常にそういうことを心配しながら過ごした 1 年だった。そんな中でもずっと家庭訪問してお迎えに行っていた 6 年生の子がおり、お母さんとも良い関係を築けていたが卒業式の 3 日前に中学校の制服等の準備ができていないことが分かった。最終的には何とかなったが、お母さんもすごく一生懸命で「学校行かそう、子育てをしよう」と頑張っているけれども、ピン트가ずれてしまうところもある。この先、中学校でやっていけるかなという不安が最後まで残っている。
- 卒業式の日、以前関わっていた児童（今は中学生になっている）の保護者と会い、色々と話をすることができた。小学校にいた当時は不登校気味で、お迎えに行っても何とか登校できていたが、中学生になり、段々登校できなくなっている。母が教師だったので勉強はフォローできる部分もあるが、同級生との繋がりがなくなっていることを心配されている。小学生のときは徐々にいい感じになっていたが、中学生になるとサポーターのような動きを

する人がいなくなる。中学校でも繋がることに繋がられていたらいいのになと思う。

- 配置された学校には不登校児童は少ないが、早期教育をする家庭が少し多い。早期教育で最初は何でもできるし親からも褒められるが、徐々に周囲が追いつき、親から褒められなくなり、「学校休みたいな」という気持ちになっている子どもがいた。賢い家庭が多いので、「自分のやり方が間違っていた」と、ご自身で気づき、最後は父がフォローして子育ての仕方を変えていくということが多くあった。ご家庭の基盤もしっかりとされていたので解決も早かったが、教育熱心なあまりに子どもが苦しむこともあるのかなと思う。

【こどもを守る課】

こども相談の中に心理相談があり、保護者からのニーズに応じて相談に乗るが、相談件数は減ることがなく増えるばかりである。コロナの影響もあってか、人付き合いが苦手な保護者も増えており、幼稚園や学校への行き渋りを先生に相談できない。心理士が話を聞いて、「ご自身から幼稚園や学校に話をしてほしい」を伝えると、逆に「心理士の先生から幼稚園や話をしてほしい」と返され、どうすればいいのかという印象。

【民生委員・児童委員協議会】

- 前回に報告した「こども真ん中フェスタ」が民生委員主催であり、寝屋川市駅前で1,000人程の方が来てくださった。今回すごく暑かったので、次回は時間をずらして、早く始めて早く終了する予定。
- 主任児童委員連絡会の報告の中で、「食べるものがない」という家庭がたまにあり、その支援をどうすればいいのかと考えている。子ども食堂があるところは、そこから食材をもらい、渡すということができるが、全くないところは別のところを案内しているが、物の手配等を主任児童委員がそこまでするのはどうなのか。正式なルートで繋がらないといけないなと思っている。